

適用拡大!
トマト・ミニトマト
 「定植後 株元灌注処理
 (定植14日後まで)」

秀品収穫は**苗美人**から。
ベシマーク® SC



powered by
CYAZYPYR®
 ACTIVE INGREDIENT

野菜灌注用殺虫剤



定植後 株元灌注処理

灌水チューブによる
 処理のイメージ図



10,000倍希釈
1~3ℓ/㎡で
株元灌注!



灌水チューブ処理のイメージ

■適用害虫と使用方法

2025年1月15日現在

作物名	適用害虫名	使用量(薬量)もしくは希釈倍数	使用量(希釈水量)もしくは使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数
トマト ミニトマト	アブラムシ類、アザミウマ類 コナジラミ類、ハモグリバエ類 トマトキバガ	400株 当り25ml	400株当り10~20ℓ (1株当り25~50ml)	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	5回以内 (定植時までの処理 及び定植直後の 株元灌注は 合計1回以内、 定植後の株元灌注は 1回以内、定植後の 散布は3回以内)
	コナジラミ類		400株当り20~200ℓ (1株当り50~500ml)	定植直後		株元灌注	
	コナジラミ類	200倍	セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット1冊(約30×60cm、 使用土壌約1.5~4ℓ)当り0.5ℓ	育苗期後半 ~定植当日	灌注		
		10,000倍	1~3ℓ/㎡	定植14日後 まで	1回	株元灌注	

すばやく根から吸収される苗灌注1回で、速効食害停止&約3~4週間の残効! 悪い虫をつけさせない。

薬害事例ゼロ!



主な適用害虫



- 特長 1** 栽培初期の難防除コナジラミ類に有効!約3~4週間の長い残効性!
- 特長 2** 灌水チューブ等による定植後株元灌注処理で、薬剤処理を省力化!作業時間を短縮!
- 特長 3** 発売以来、薬害事例ゼロ! マルハナバチ、天敵にも高い安全性!

NEW

トマト・ミニトマトへの
本剤の使用時期、
使用回数

品質、収量を高める管理作業に、
注力する余裕が生まれます!



使用回数のイメージ	育苗期後半~定植当日(定植直後)		定植後(生育期)	登録上の使用可否
	ポット処理/セルトレイ処理	根回し水/根じめ処理	株元灌注	
体系①	1回	1回		×
体系②	1回		1回	○
体系③		1回	1回	○

灌水チューブを用いた、定植後 株元灌注処理による高い防除効果

トマト/タバココナジラミ



処理後3週間以上、
コナジラミ類から、
しっかり作物を守ります!



— ベリマーク®SC 定植当日処理
— ベリマーク®SC 定植7日後処理
— 無処理

2024年 株式会社Field Styled Lab.(鹿児島県)
【試験概要】◎品種:ホーム桃太郎◎区制:1区
30株 3反復◎播種:8月30日◎定植:10月9日
◎処理日:10月9日、10月16日◎処理方法:所定
濃度に希釈した薬液をポリプロピレン製タンク
へ所定量充填し、電動式のポンプを連結させた
灌水チューブにより処理した。また、10月10日
(定植翌日)に1頭/株の本種雌成虫を吸虫管を
用いて各区にランダムに放虫した。◎処理時の作
物のステージ:生育初期:本葉6枚◎調査日:定植
14日後(10月23日)、定植21日後(10月30日)、
定植29日後(11月7日)、定植36日後(11月14日)
◎調査方法:任意の5株について、各株の上位、中
位、下位の複葉(計15複葉/区)を調査した。

トマト・ミニトマト 定植後 株元灌注での希釈液量・薬量早見表

処理する面積	1ℓ/m ² (1,000ℓ/10a)の場合		3ℓ/m ² (3,000ℓ/10a)の場合	
	10,000倍希釈液量	ベリマーク®SC薬量	10,000倍希釈液量	ベリマーク®SC薬量
1a (100m ²)	100ℓ	10mℓ	300ℓ	30mℓ
5a (500m ²)	500ℓ	50mℓ	1,500ℓ	150mℓ
10a (1,000m ²)	1,000ℓ	100mℓ	3,000ℓ	300mℓ
25a (2,500m ²)	2,500ℓ	250mℓ	7,500ℓ	750mℓ
30a (3,000m ²)	3,000ℓ	300mℓ	9,000ℓ	900mℓ

●ラベルをよく読んでください。●記載以外には使用しないでください。●小児の手の届くところには置かないでください。
●空容器はほ場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水は散布液調製に用いるなど、ほ場等で使用してください。●防除日誌を記載しましょう。